



そうすることで、迫害する前よりももっともっと激しく、ユダヤ人を憎むようになって行きました。

何かを選ぶと、その選択の結果が自分の人格の中に焼き込まれてしまうんです。

悪を選ぶと悪が焼き込まれてしまいます。悪い方向を選ぶと、ますます悪い方向にエスカレートするんですね。

艱難時代の人々も同じです。反キリストを選ぶことによって、反キリストに献身するようになる。しかも自発的な献身です。その結果、彼らは2つの裁きを受けることになるかと警告されています。1つ目の裁きは地上で受ける。2つ目の裁きは、死後最終的に魂が行くゴールについての預言です。

### 1つ目の裁き

**10 その者（刻印を受けた者）は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた、神の憤りのぶどう酒を飲み、神の憤りのぶどう酒を飲む。**

艱難時代の最後に7つの鉢がぶちまけられます。これは、その裁きを受けることの表現です。

黙示録は7つの封印、7つのラッパ、7つの鉢の3つの段階を経ます。

7つの封印は前半3年半の前半。7つのラッパは前半3年半の後半。

では、7つの鉢は後半全体でしょうか。いいえ。

おそらく艱難時代ラスト1週間もない、非常に短い期間に起こる裁きです。

詳しいことは黙示録16章に出て来ますが、1年も2年も続いて、それで人間が生きることができるというような、そんな生易しいものじゃないんですね。ラスト1週間以内だと私は考えています。

ただし、この7つの鉢の裁きは、地上のすべての人が受けるのではありません。選択的なんですね。666の刻印を受けている者たちにのみ降りかかる裁き。それが7つの鉢の裁きです。

2つ目の裁きは**死後の裁き**です。

**10 聖なる御使いたちと子羊の前で火と硫黄によって苦しめられる。**

**11 彼らの苦しみの煙は、世々限りなく立ち上る。**

火と硫黄によって苦しめられる。その場所はゲヘナ（永遠の地獄）です。

新約聖書にはゲヘナについて12回メッセージがありますが、そのうちの11回はイエス・キリストご自身が語っておられます。「優しいキリストが地獄について語るなんて、あり得ない。」

いいえ。キリストは他のだれよりも多く、地獄について詳しく語られました。

「どんなことがあっても、そこに行ってほしくない。」

愛から出ている熱情が、そう語らせたのだと思います。

世々限りなく。これはギリシア語の時間を示す表現の中で、“最も長い。終わりが無い”という意味です。世々限りなく、終わりのない、永遠のゲヘナ（地獄）があることをここで語りました。

**11 獣とその像を拝む者たち、また、だれでも獣の名の刻印を受ける者には、昼も夜も安らぎがない。」**

非常に激烈な裁きが預言されています。

なぜこんなに厳しい裁きが語られているのでしょうか。

彼らは既に2度にわたって福音を聞くチャンスを与えられていたのに、故意にそれを拒否したんです。

1 度目のチャンスは、144,000 人のユダヤ人たちが全世界に出て行って、福音を宣べ伝えてくれた。彼らは自分たちが理解できる言語で、ユダヤ人ビリーバー（宣教者）からキリストの福音を聞いたのです。聞いたにも拘らず「ノー！」と断った。

2 度目のチャンスは 14 章に出て来ましたね。御使いたちが全世界に向けて、永遠の福音を宣べ伝えました。しかし、それを聞いても彼らは受け入れなかった。

つまり、艱難時代に福音を聞くことができなかった人はいないんです。だれもが全員この福音を、しかも 2 度以上にわたって聞いているのに、それよりも反キリストのほうが良いと選択した。その人たちの結末がここで語られているのです。

反キリストのしもべになることはそのまま、艱難時代にキリストを信じた人たちを弾圧する側に立つことでもあります。なので、第 4 の宣告の締めくくりはこうです。

**12 ここに、聖徒たち、すなわち神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける者たちの忍耐が必要である。**

最後は激励で終わっています。イエスに対する信仰を持ち続ける者たちの忍耐が必要である。ギリシア語の原文には、必要であるという言葉はないんですね。翻訳した方が、原文にはない“必要である”を付け加えたんです。

原文は、イエスに対する信仰を持ち続ける者たちの忍耐がある。「彼らは忍耐していた」という描写を素朴に語っているんです。なぜ彼らは忍耐していたのでしょうか。

私たちは我慢することが中々できませんよね。私もあまり我慢できないほうの人間です。ところで聖書は、忍耐と我慢は違うと言っているんです。どこが違うのでしょうか。  
**我慢**は、根拠なく ひたすら歯をくいしばって堪（こら）えること。  
**忍耐**は、間もなくこの苦しみを終わらせる方が来る。この苦しみの期間が終わる。必ず来る善きものを待つ態度のこと。

彼らはなぜ忍耐できたのか。あと 3 年半でキリストが来る（地上再臨）ことを知っていたからです。カウントダウンの態勢に入っているんですね。なので、「いつまでもこれが続くことはない。正義の審判者が必ず来てくださる」という信仰に基いて忍耐しました。

今キリストを信じている人たちは艱難時代に入りません。しかし今の時代でも、辛いこと・苦しいこと・残念なことは次から次へと起こるものですね。今のクリスチャンたちは地上再臨ではなく、携拳（けいきょ）してくださるイエス・キリストを待ち望んでいます。携拳は今起こっても不思議ではないのです。

実にスリリングな、そして忍耐が報われる その瞬間が非常に近い時代に生かされていることを思い、私は黙示録を学ぶと本当に勇気が与えられます。

黙示録のメッセージを聞いて、「ここに真実があるなあ。」「神様の約束って素晴らしいなあ。」  
「これは揺るぎないなあ」と思う方は、ぜひイエス・キリストを信じてください。

よろしければ、またお付き合い下さい。チャンネル登録もお願いします。  
ではまた ごうちゃんねるでお目にかかりましょう。皆さん、お元気でいてください。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。